

# ましまの風

発行所 杵藤農林事務所杵島農業改良普及センター  
 佐賀県杵島郡白石町大字東郷2546-2  
 TEL0952-84-3625 FAX0952-84-6425  
 E-mail : kitounourin@pref.saga.lg.jp  
 URL :http://www.pref.saga.lg.jp/list02464.html

令和4年2月

第54号

21世紀の主役たち



**新時代へ!!若い農家の  
熱い想いをとどける!!**

「TK4HアグリマネージメントCLUB 冬のつどい」が2月2日に開催され、農業に対する熱い思いが発表されました。

「農業青年の提言」で、最優秀賞に輝いたのは白石青実会の辻田幸介さん。レンコン栽培で肥料設計や品種更新に取り組みられるとともに、玉葱栽培についても機械化による規模拡大を計画的にすすめられる点について評価されました。

また、優秀賞には、茶園の改善に向けて改植と茶の根元を剪定する台切りに取り組まれた澤井さんと、水田の規模拡大に取り組みつつ、地域の農地を守っていききたいと熱く語った伊健太さんの2名が選ばれました。

来年度の県大会発表にむけて、溝口博士さん、諸岡隼人さん、森海斗さんの3名も発表され、自身の熱い想いや自由な発想が展開される発表となりました。

「地域発展プロジェクト」では、白石青年実業会の野口隼汰さんが、タマネギの大王化や腐敗病等の課題解決を図る取り組みについて発表され最優秀賞に輝きました。適正施肥によるコスト低減と収益性の向上が、地域のタマネギ振興につながると期待されました。

澤井翔平さんは科学的なデータや経営発展計画に基づき、茶園の改植になどに取り組みされる素晴らしい発表がなされました。

笠原農業士からは、「農産物価格の低迷や燃油高騰など苦しい状況だが、若い力で共に頑張りましょう」と力強いエールをいただき、会場全体の士気が大きく高まる会となりました。

## 地域情報コーナー



白石町では、新たなパン用小麦「はる風ふわり」の作付けが開催されました。パン用として消費される小麦のほとんどが外国産ですが、「はる風ふわり」は外国産に匹敵する製パン加工適性をもつ品種です。実需者からは「品種名が示すような優れたパン用小麦だ。」と高い評価を得ています。

雨の多い九州でも栽培しやすく、パンのふくらみに必要なタンパク質の含有率が確保しやすいことが特徴です。「今春、香しい風を届けられる。」と8haを栽培する生産者も楽しみにされています。

**「はる風ふわり」  
をお届けします**



近年、夏の高温が長期化しており、暑熱ストレスが、牛の発育を低下させる原因となっています。そこで普及センターでは肥育牛においてバイパスナイアシンを含む飼料添加物を出荷前の約3か月間に給与するという実証試験を行いました。その結果、過去同時期の出荷成績と比較し、枝肉重量は30kg以上増加する結果となり、生産者からは「よくたべている」との声をいただいています。

細霧設置などの施設整備と並行して、飼料添加物の有効性をご検討ください。

**暑熱対策で  
もう夏バテしない!!**



白石町白石地区で、レモン「璃の香」が結実3年目を迎えました。「璃の香」は皮が薄くて苦みが少なく、まろやかな酸味が特徴です。また、収量性に優れ、病害にも強いため栽培しやすい品種です。

「白石果樹試験組合」では、数多くの果樹品目を試験栽培されていますが、その中でも最も地域にマッチする品目として注目されています。

9月から道の駅しろいしで販売されましたが、好評につき売り切れ続出というものでした。今後は、首都圏の飲食店への売り込みを検討されています。作付希望者が増えており、白石町の新特産品として期待されています。

**白石の新たな特産品  
「璃の香」!**

# 佐賀農業賞 受賞者紹介

## 先進的農業経営者の部 優秀賞 坂井浩一郎・純子氏

坂井夫妻は、施設ハウスで白の輪ギクを栽培されており、年間60万本も出荷されています。

これまでに大屋根型ハウス5棟、フエンロー型ハウス4棟を導入され、効率のよい栽培をされています。基本を忠実に、適期作業を行うことを第一に心掛けるとともに、雇用の方がゆとりを持って仕事ができるよう調整されるなどの配慮をされています。

いつ見ても仕事が早く、ハウスの中も周りもきれいな坂井さん。『消費者に喜ばれる高品質なキクづくりのため、当たり前のこととしているだけ』と笑顔で言われる頼もしい姿が印象的です。



## 進めます「農」「福」連携で 暮らしやすい杵島

農業分野における人手不足を障がい者の手を借りて解決しようとする「農福連携」が、いま注目されています。県では農福連携を進めるために、「農福連携プロジェクト推進チーム」を発足させました。先進的に取り組んでいる生産者からは、「安心してまかせられる。」とパートナーの存在を心強く思われているようです。このように、生産者と障がい者がともに支えあっている、地域共生社会の実現をできるよう、当普及センターも支援を強化していくこととしています。



## 若い農業経営者の部 最優秀賞 九州農政局長賞 香月雅雄・優華氏

香月夫妻は、れんこん23haを核とした全国でもトップクラスの大規模経営を行われています。品種構成の適正化により大規模経営を可能とし、同時に、高収量と周年出荷を実現されています。消費者目線でおいしさを追及し、品質も超一流のお墨付きをもらっています。また、泥付き、洗い、真空パックなど売り先のニーズに合わせた出荷形態を採用することで、販路を拡大し経営のリスク分散に努められています。今後の目標は、れんこんを50haまで規模拡大することと、これからの地域をリードする頼もしい若手農業者です。



## 女性グループの交流で 地域農業に光明を!

12月9日、杵島地区の女性グループ研究会と新たに設立した女性グループ「AGUMI Group」が合同で、伊万里市立川の梨で取組まれている後継者確保・育成や6次化推進について視察されました。

①優良園地の流動化で後継者が就農しやすい環境整備  
②整枝法の改善による省力技術の導入  
など儲かる農業経営の実践等、楽をしながら産地を盛り上げていこうという経営発展の手法は、「自分たちの経営発展の参考になる。」と感心されました。そして、「これからも、私たち女性が一歩前に出て、地域農業を導かないといけない。」との決意も聞きました。



## 地域農業活性化の部 優秀賞 JAさが白石地区蓮根部会

JAさが白石地区蓮根部会の令和2年度の部会員数は106人、総作付面積は130ha。近年は、一人当たりの作付面積が増加傾向にあります。そのような中でも蓮根部会には課題がありました。①契約販売における安定出荷。②需要に応じた出荷形態にすること。その対応として、①委員からのSNS連絡網による計画的な出荷調整②共選場整備に伴い新たに「洗い蓮根の契約販売」に取り組んできました。

来年度は「白石で蓮根栽培が始まって100年の節目の年」です。これを契機に白石蓮根部会はさらに進化していきます。



# 情報提供コーナー

## 大町の園芸団地で キュウリ栽培スタート!! (続報)

大町園芸団地におけるキュウリの定植が11月30日から行われました。新たなハウスに、息を吹き込ませるには、これまで大町でキュウリを栽培されてきた梶原氏と鶴池氏の2名。特筆すべきは、鶴池氏のハウスでは土耕栽培ではなく『養液栽培』にチャレンジされていること。「手探り状態ですが、50t/10aの収量と、秀品率80%以上を目指していく。」と熱い思いを語っていただきました。また、梶原氏も若い後継者を迎え入れ、キュウリ団地育成を盛り上げていきたいと語られています。

